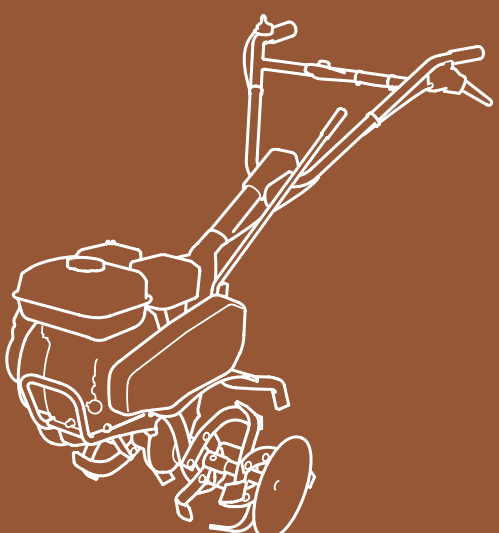
HONDA
汎 用 製 品

耕うん機

F502

取扱説明書



e SPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

一般公道での走行はできません。
（本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。）
夜間作業はできません。
（本機は作業灯が装備されていません。）

取扱説明書について
この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

---

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・4
安全ラベル・・・・・

エンジンのかけかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

運転操作のしかた・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
変速・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、きちんと身体にあったものを着用してください。
- 裸足や爪先が開いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機を運転操作させないでください。また、子供には操作させないでください。事故や、機器の損傷が起こる原因となります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
- 点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
- 本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止の措置をとってください。
- 作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
- 作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。

「車軸と連動し駆動する推奨作業機」耕うん爪の回転直径は：
31 cm以下※

※：平成22年度安全鑑定基準に基づく

警告

- 作業内容に適した作業機は、お買いあげいただいた販売店にご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。適性な性能や機能を発揮しなくなり、思わぬ事故をまねきケガをするおそれがあります。
- 屋内でエンジンをかける場合には換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故が起きやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、ほ場の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分に落とし、周囲に注意してハンドル操作を行ってください。

警告

・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。

・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

- ほ場への出入り、急傾斜、溝または畦の横断を行うときは、必ず２人以上で本機を持ち上げて行ってください。１人で行うとケガをするおそれがあります。

・ほ場の状況を十分に把握し、周りに注意して行ってください。

・軟弱地の通過は、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、低速で行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。

- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休憩などで本機を離れる場合はエンジンを止めて安定した場所に置いてください。
- 爪(ロータ)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると死傷事故を起こすおそれがあります。

・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。

・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグキャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。

警告

- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取除いてください。
  ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料給油キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

警告

●作業が終わったら

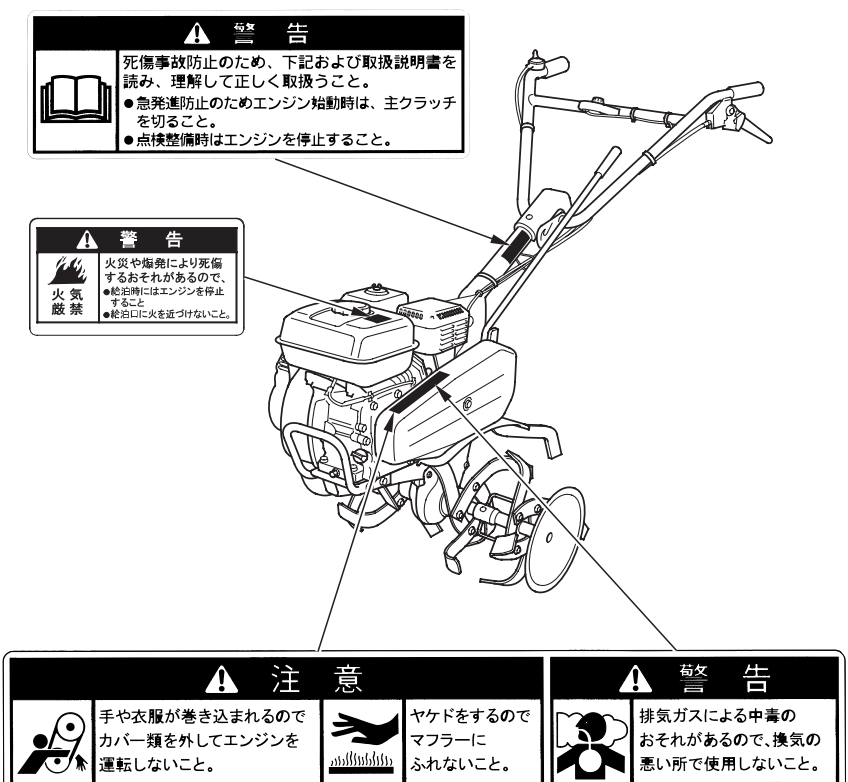
- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせないでください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音器)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

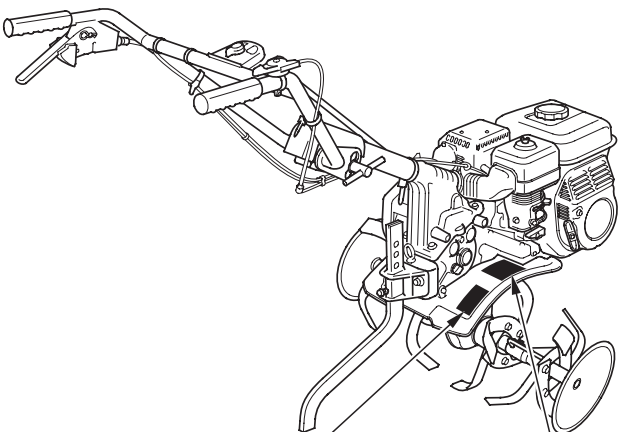
●積み降ろしおよび運搬時

- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かないようにしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・運搬時、本機の燃料タンクおよびキャブレータの燃料を抜いてください。
  - ・必ず２人以上で持って、車の荷台に載せてください。

安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。





危　険

回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

警　告

後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると、死傷するおそれがあるので、

- 後方に人や障害物がないことを確認すること。
- 車速を最低にしてエンジン回転数を下げること。
- ハンドルをしっかりささえること。
- クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にすること。

サービスと保証について

お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。



※ フレーム号機および銘板の表示位置は13頁をご覧ください。

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

安全鑑定

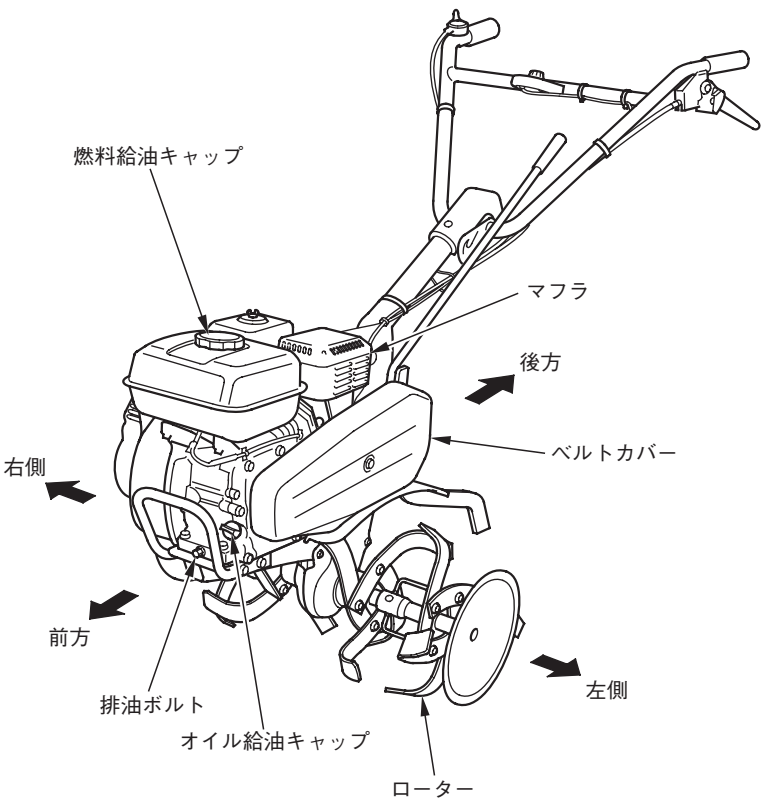
安全鑑定型式名
ホンダF502

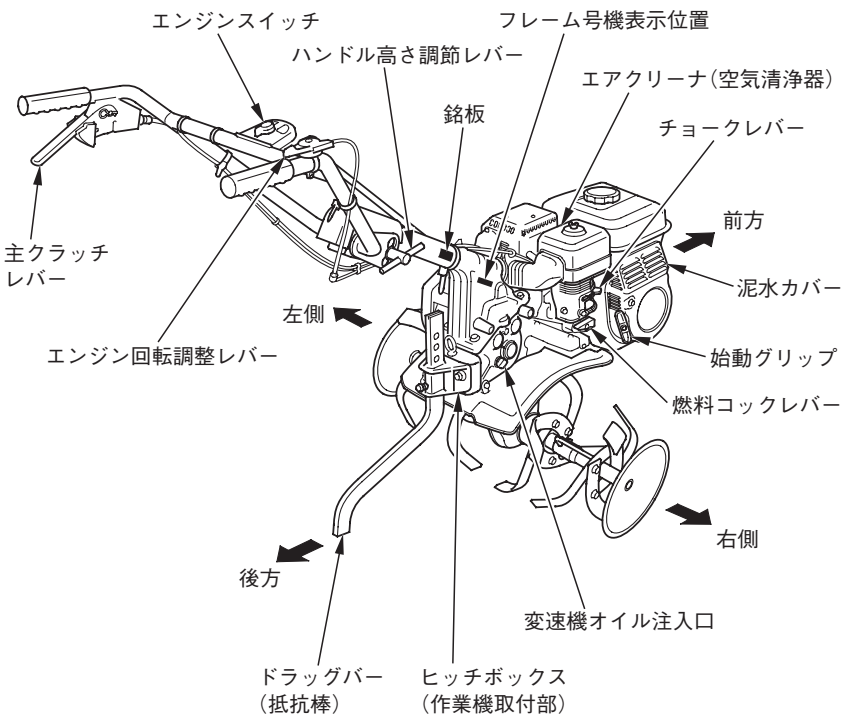
安全鑑定証票



各部の名称と取扱いをおぼえましょう

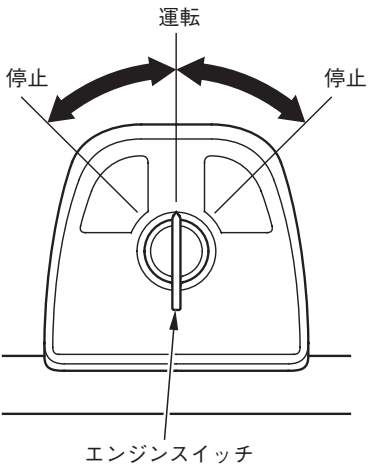
各部の名称




エンジンスイッチ
フレーム号機表示位置
ハンドル高さ調節レバー
エアクリーナ（空気清浄器）
銘板
チョークレバー
前方
主クラッチ
レバー
泥水カバー
左側
エンジン回転調整レバー
始動グリップ
燃料コックレバー
右側
後方
変速機オイル注入口
ドラッグバー
（抵抗棒）
ヒッチボックス
（作業機取付部）

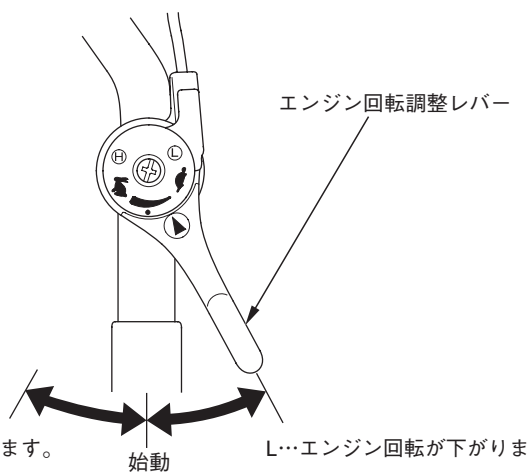
エンジンスイッチ

エンジンスイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



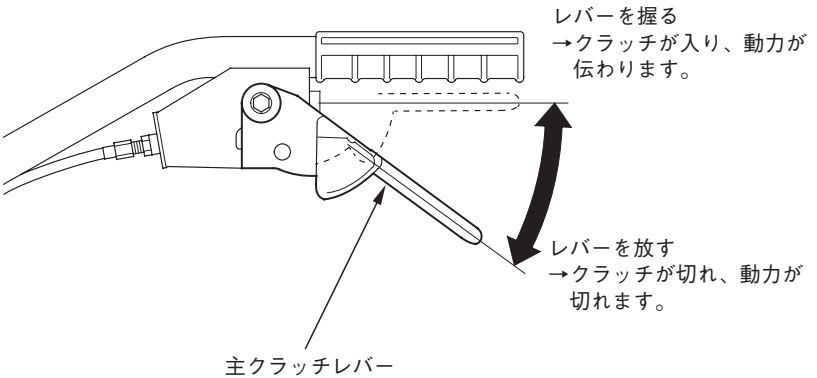
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



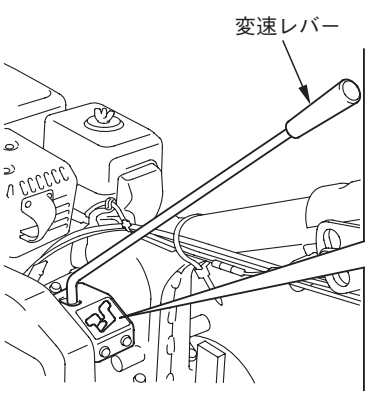
主クラッチレバー

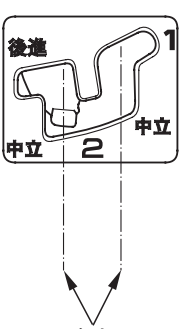
主クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。



変速レバー

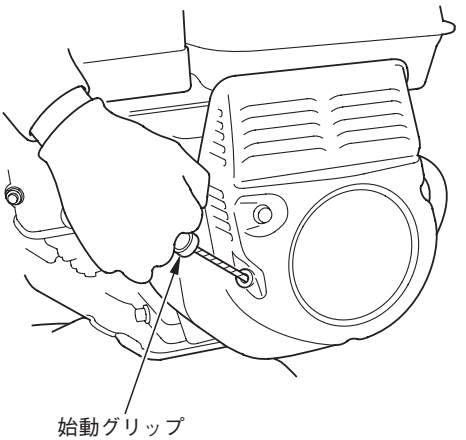
本機の速度を変えるときに操作します。



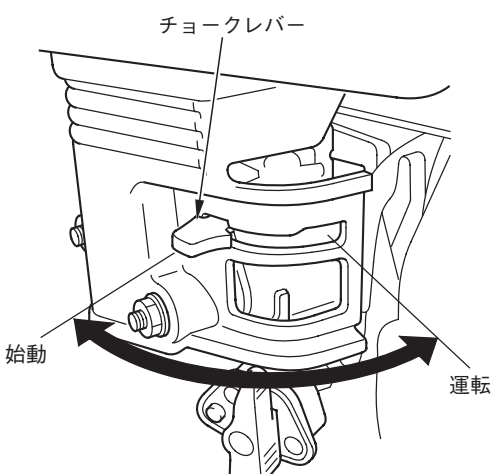


変速は前進2段、後進1段です。

始動グリップ
エンジンを始動するときに操作します。



チョークレバー
エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



燃料コックレバー

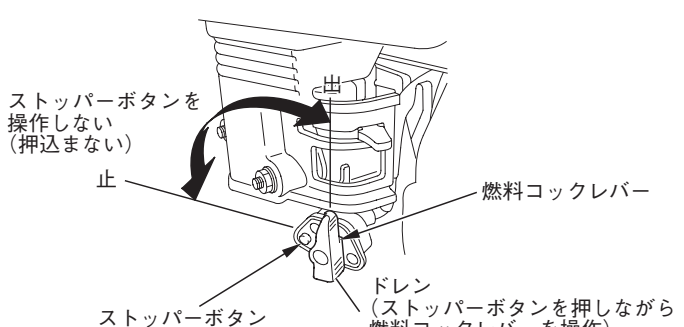
〈通常時の使用〉
燃料タンクからキャブレータまでの通路を開閉するときに操作します。
〈燃料排出時の使用〉
燃料をキャブレータ内から排出するときに操作します。

通常時の使用《ストッパーボタンは操作しない(押し込まない)》

レバー位置	ストッパーボタン	働き
出	操作しない	燃料タンクからキャブレータまでの燃料供給通路が開く
止 ・ストッパーボタンでとまる位置	操作しない	燃料タンクからキャブレータまでの燃料供給通路が閉じる

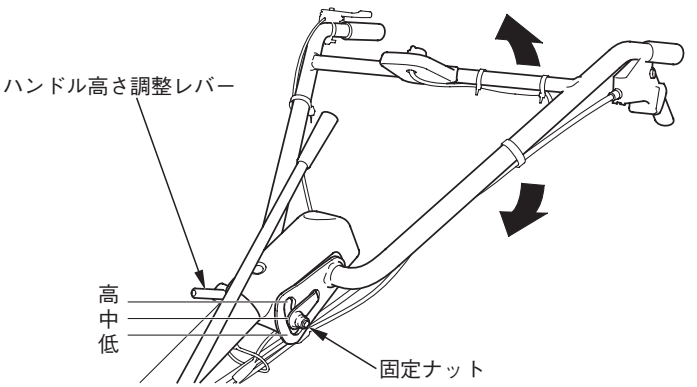
燃料排出時の使用《燃料の排出は、53項の手順で行ってください》

レバー位置	ストッパーボタン	働き
ドレン	ストッパーボタンを押しながら燃料コックレバーを回す	キャブレータ内の燃料が抜けます (燃料タンク内の燃料は排出されません)
止	操作しない ・カチッと音がする位置まで燃料コックレバーを戻す (戻し過ぎない)	燃料排出通路が閉じる



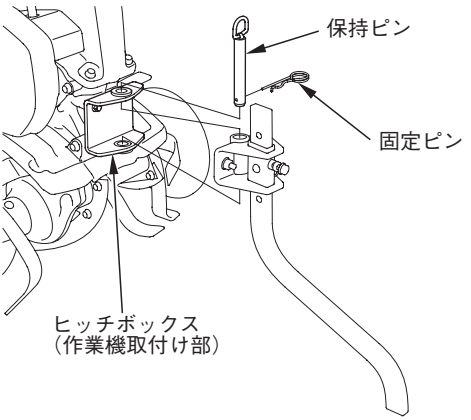
ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容や運転者の身長に合わせるレバーです。
（調整は28頁参照）



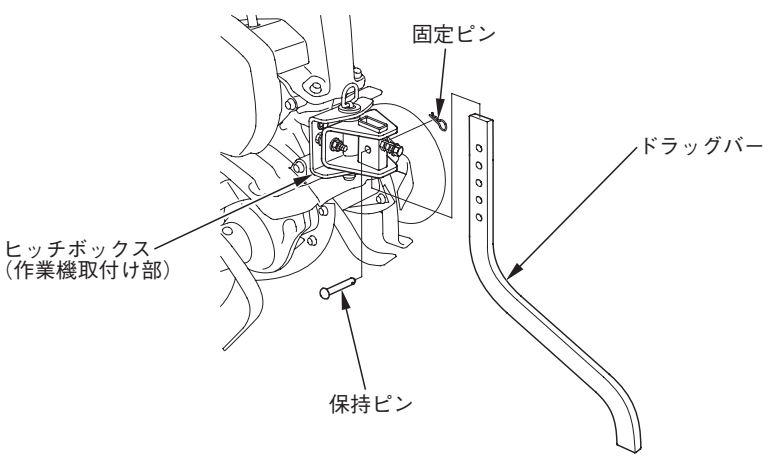
ヒッチボックス(作業機取付け部)

作業機を取付けるところです。
取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは固定ピンで固定します。



ドラッグバー(抵抗棒)

耕うん深さを調節するとき、ドラッグバーを上下させて調節します。
(調整は29頁参照)



作業前に点検・調整しましょう

⚠警告
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……燃料の量(21、22頁参照)、オイルの量(23頁参照)は規定量入っていますか。
  燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
  泥水カバー内に草や泥などのつまりはないですか。(27頁参照)
- レバーの作動……レバーの遊び量(50頁参照)は規定どおりですか。
  引っかかりはないですか。
  スムーズに作動しますか。
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバーにゆるみ、がたはないですか。
  ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……被覆のやぶれ、切れはないですか。
  配線、ケーブルのはさまりはないですか。
- エンジンの始動、停止…エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は32～35頁参照)
  エンジンスイッチで確実に停止しますか。
  (停止手順は40～42頁参照)
- その他異常を感じたら直ちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

燃料の点検

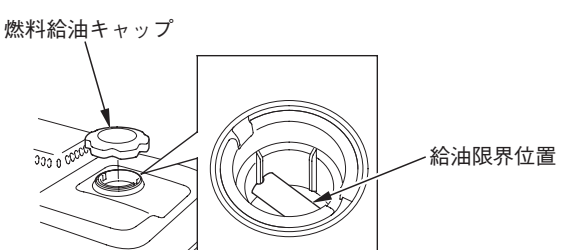
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは

- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に手を触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむきガソリンがにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

本機を水平にし燃料給油キャップを外し、燃料の量を点検します。少ない場合は補給してください。



補給

使用燃料：無鉛レギュラーガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。
- 燃料給油キャップは補給後完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

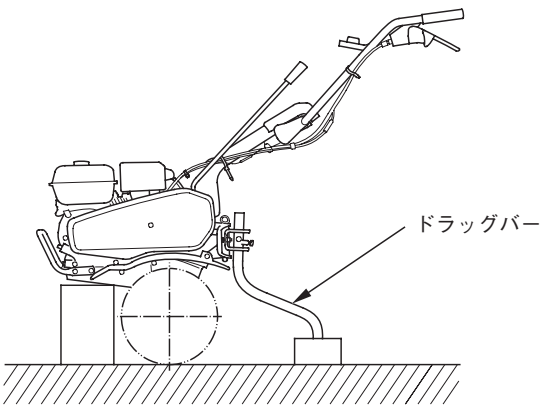
取扱いのポイント

- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。
- ガソリンは自然に劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。

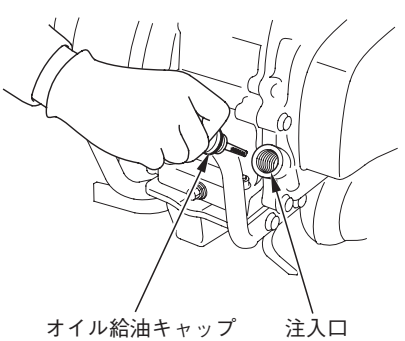
エンジンオイルの点検

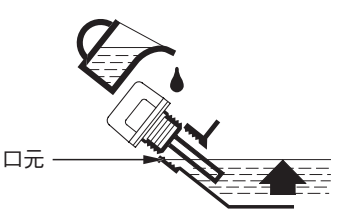
点検

エンジンを停止し、平坦な場所で、図のようにフロントフレーム下部に適切な台を、またドラッグバーの下に木片等を置き、本機を水平にします。



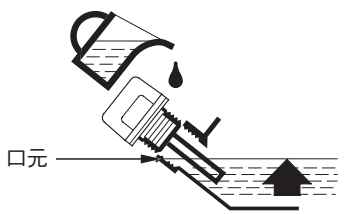
オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあることを確認します。



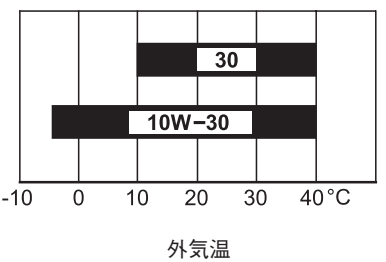


補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換は44、45 頁参照)
  補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル
  Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、
  またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。
  エンジンオイル量： 0.58 L



エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

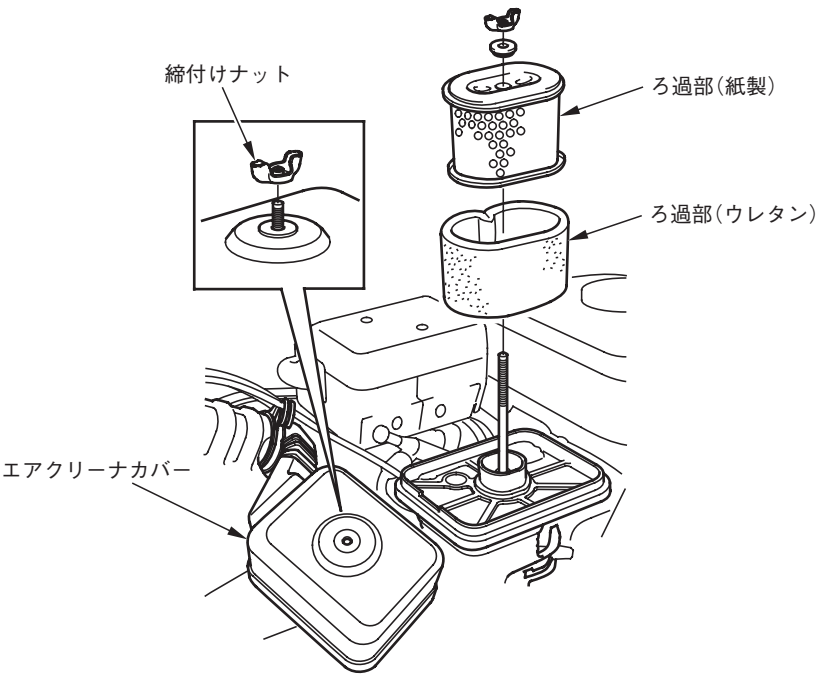


取扱いのポイント

エンジンオイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エアクリーナ(空気清浄器)の点検

エアクリーナカバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないことを確認します。
汚れている場合は清掃してください。(清掃は46頁参照)



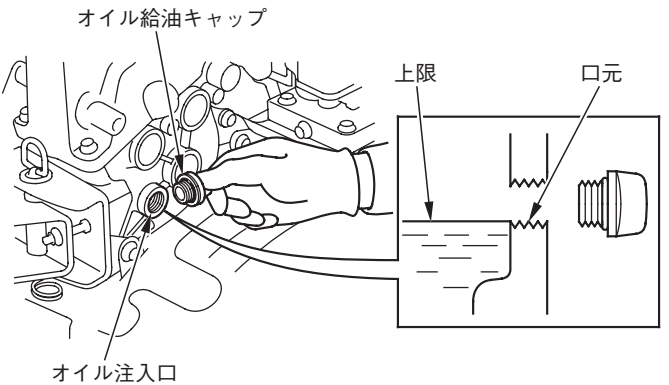
取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(紙製)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

変速機オイルの点検

点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、口元までオイルがあることを確認します。少ない場合は補給してください。



補給

《推奨オイル》 Honda純正ウルトラU汎用(SAE 10W-30)、
またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

変速機オイル量：0.95 L

- オイル給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは確実に締付けてください。

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

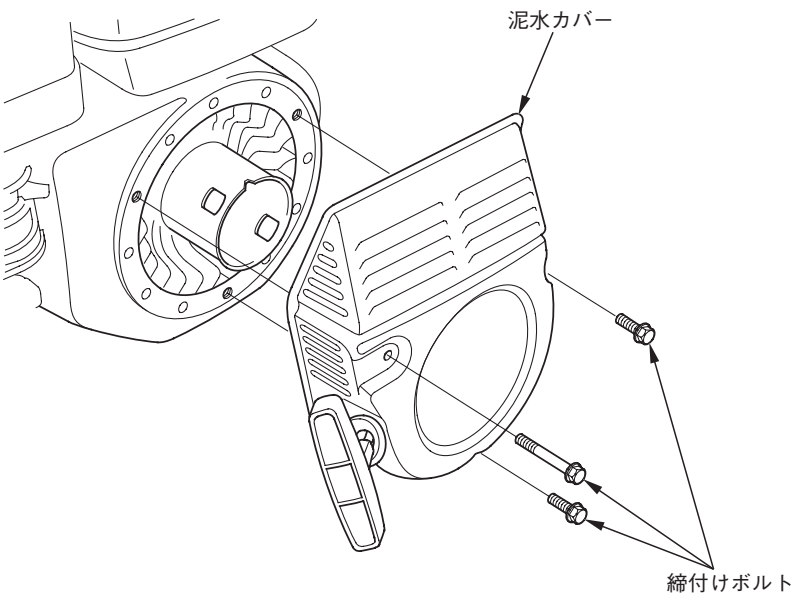
泥水カバーの点検、清掃

点検

泥水カバーの上部より目視にて確認します。草や土が入っていたり、泥水が入った場合は清掃してください。
泥水カバー内に草や土が入っていると冷却風の不足でオーバーヒートの原因となる場合がありますので必ず清掃を行ってください。

清掃

1. 締付けボルト3本を外し泥水カバーを取外します。
2. 泥水カバー内の草や泥を取除きます。
3. 清掃後、元の位置にセットし、締付けボルトを確実に締付けてください。



ハンドルの位置調整

ハンドルの高さを作業内容や運転者の身長に合わせて調整します。

⚠注意

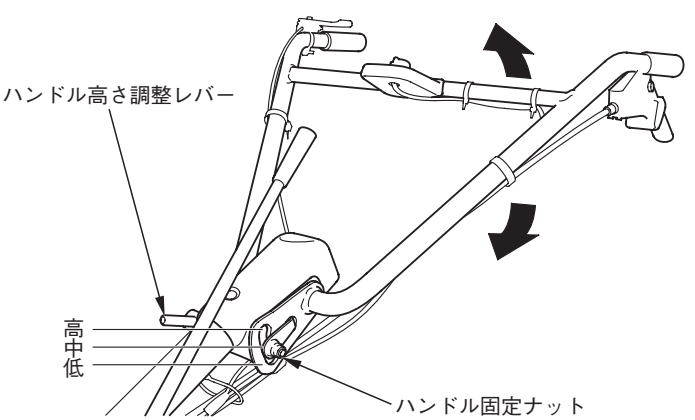
- 調整後、ハンドル高さ調整レバーを確実に締付けてください。締付けがゆるいと作業中ハンドルが不意に動き思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 調整はエンジンを停止して行ってください。

調整のしかた

取扱いのポイント

ハンドルを調整するときは、本機を平坦な場所に置いて行ってください。

1. ハンドル高さ調整レバーを緩め、ハンドルを上下に移動し高さを調整します。
2. ハンドル固定ナットをセットし、ハンドル高さ調整レバーを確実に締付けます。
   ハンドル固定ナット、ハンドル高さ調整レバーは高、中、低のいずれかの位置に確実に合わせてください。

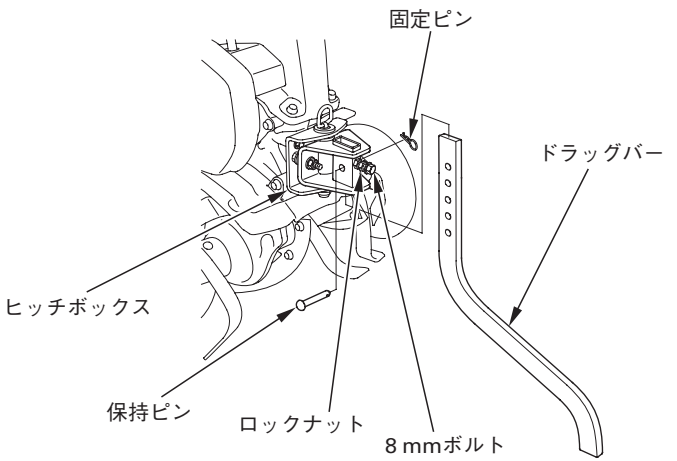


ドラッグバー（抵抗棒）の調節

耕うん深さを調節するとき、ドラッグバーを上下させて調節します。

調節

1. ロックナットをゆるめ、8 mmボルトをゆるめます。
2. 固定ピンを外して保持ピンを抜き、ドラッグバーを任意の穴位置に合わせ、保持ピンを差込み固定ピンで固定します。
3. 8 mmボルトを締付けロックナットで固定します。



主クラッチレバーの作動(点検・清掃)

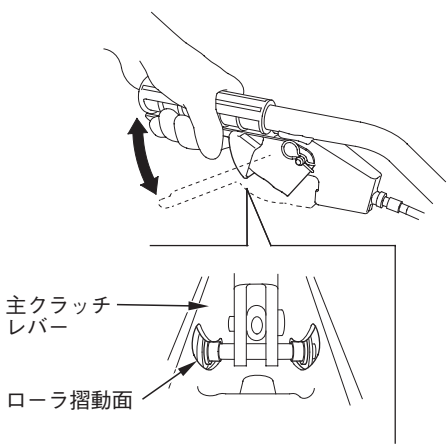
点検

- 主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。
- 主クラッチレバーのローラ摺動面に異物(ゴミ、砂、土、小枝など)がないことを確認します。

スムーズに動かない場合、異物がある場合は、清掃してください。(清掃方法は31頁参照)

取扱いのポイント

オイル、洗浄剤などを塗布したり吹付けないでください。オイル、洗浄剤などに異物が付着することがあります。



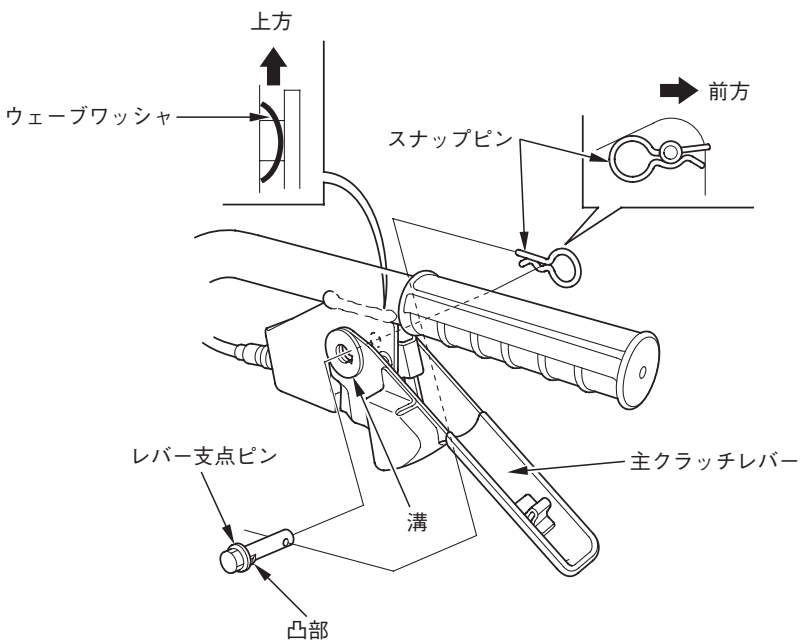
清掃

「レバーのローラ摺動面清掃」「異物の除去」は、主クラッチレバーを取外して行います。(作業手順は31頁参照)

取扱いのポイント

主クラッチレバーの取外し時、ウェーブワッシャの落下に注意してください。ウェーブワッシャは、主クラッチレバー右側と取付け部との間にあります。

1. スナップピンをレバー支点ピンから引抜きます。
2. 主クラッチレバーを保持しながら、レバー支点ピンを抜取ります。
   主クラッチレバーとウェーブワッシャを取外します。
3. 異物がある場合、取除きます。
   主クラッチレバーのローラ摺動面の汚れをウエス等で拭取ります。
4. ウェーブワッシャの表裏と方向を図のようにします。この状態で主クラッチレバーを取付部に合わせて、レバー支点ピンを差込みます。
5. レバー支点ピンの凸部を主クラッチレバーの溝に合わせ、スナップピンを図の向きに差込みます。



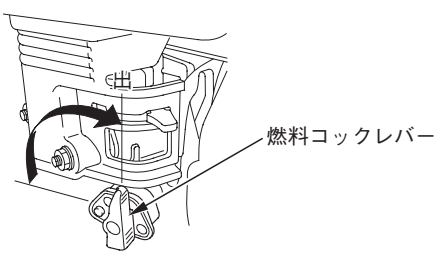
6. 主クラッチレバーがスムーズに動くことを確認します。スムーズに動かない場合、お買いあげ販売店またはサービス店にて整備してください。

エンジンのかけかた

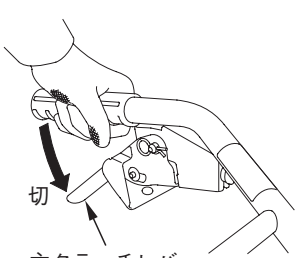
⚠警告

- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチレバーが“切”、変速レバーが“中立”になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

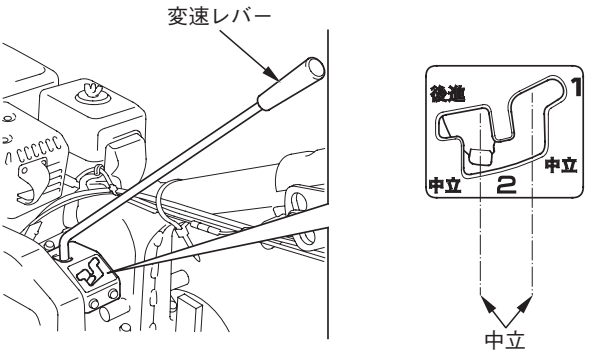
1. 燃料コックレバーを“出”の位置にします。



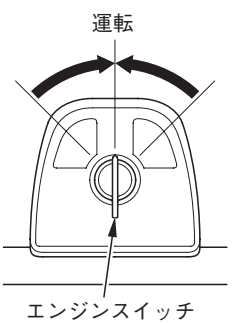
2. 主クラッチレバーが“切”になっていることを確認します。



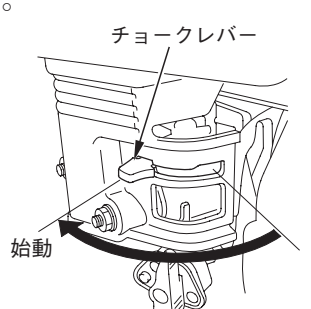
3. 変速レバーが**“中立”**になっていることを確認します。



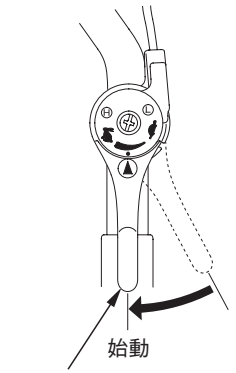
4. エンジンスイッチを**“運転”**の位置にします。



5. 寒いときやエンジンがかかりにくい場合には、チョークレバーを**“始動”**の位置にします。



6. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



7. ハンドルを左手で握り、右手で始動グリップを静かに引いて、重くなるところで止めます。次に矢印の方向に強く引っ張ります。



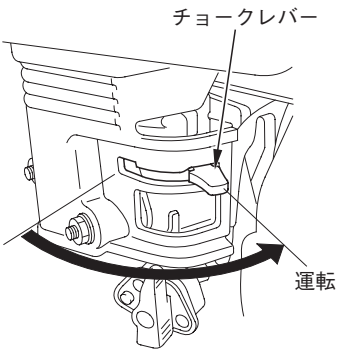
⚠注意

始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物がないことを確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

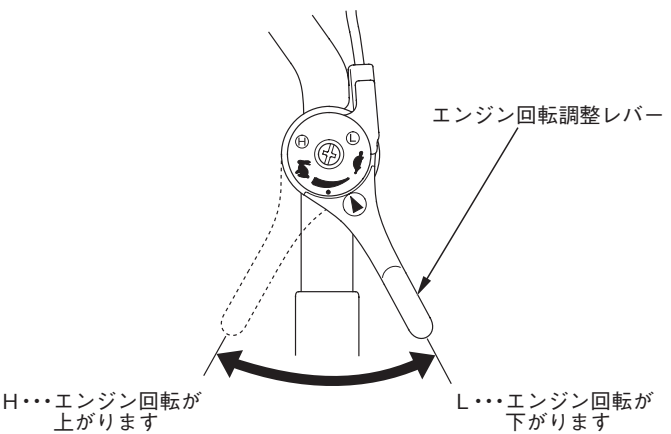
取扱いのポイント

- 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり戻してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8. エンジンが始動したら、２～３分間暖機運転を行います。
チョークレバーを**“始動”**にしたときは、エンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



エンジン回転は、作業に応じて調整してください。



運転操作のしかた

安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

変速

変速レバー

作業の状況に合せ適切な変速位置を選びます。(37頁参照)速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上がり等に弊害が出ます。

変速の要領

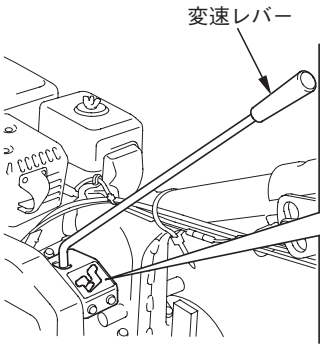
1) 変速レバーは、必ず主クラッチレバーを放してから操作します。
2) 変速レバーが変速しにくいときにはいったん主クラッチレバーを握った後主クラッチレバーを放してもう一度操作します。
3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転してください。

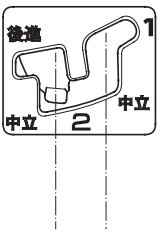
⚠警告

後進時、ハンドルがはね上り爪(ロータ)にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- 後方に人や障害物がないことを確認してください。
- エンジン回転を下げてください。
- ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- 主クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れるようにしてください。
- 傾斜地では変速レバーを中立にしないでください。中立にすると駆動力が切れ、本機が思わぬ動きをすることがあります。

• 変速表





変速位置	車軸回転数＊1
1	79.5 rpm
2	112.9 rpm
後進	28.0 rpm

＊1： エンジン回転数3,600 rpm時

運転

主クラッチレバー

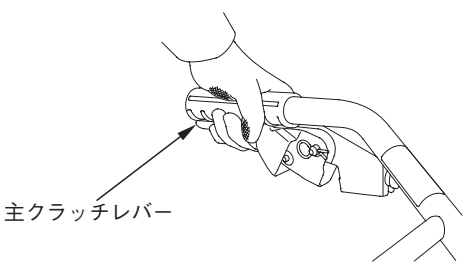
主クラッチレバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

⚠注意

本機の操作を行うときは、本機後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

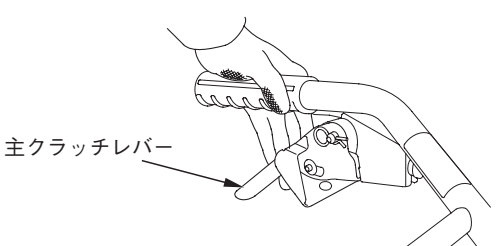
走行

主クラッチレバーを握る→クラッチがつながり、本機が走行します。



停止

主クラッチレバーを放す→クラッチが切れ、本機が停止します。

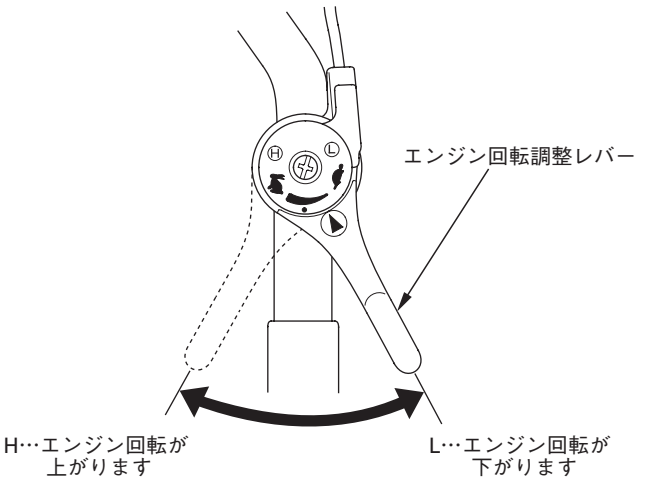


取扱いのポイント

主クラッチレバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。急激な操作を行うと、機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

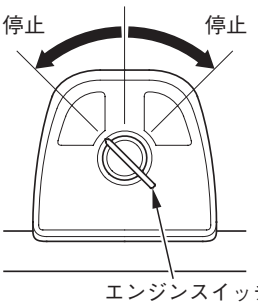
エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて調整してください。



緊急停止の場合

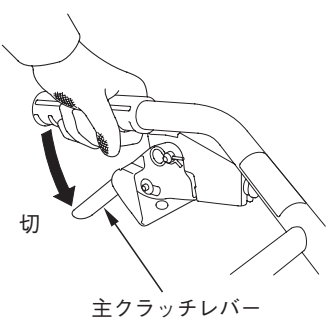
エンジンスイッチを**“停止”**に合わせます。



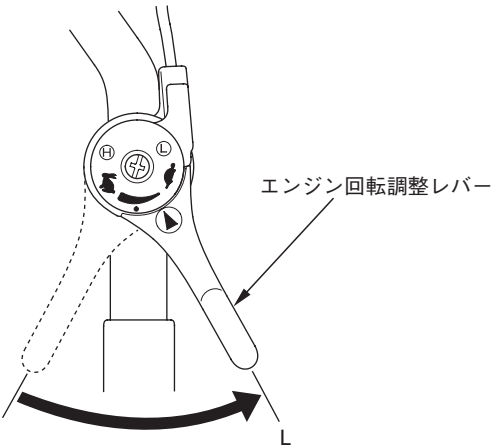
エンジンスイッチを使って本機を緊急停止させた場合は、再び始動する前に変速レバーを**“中立”**の位置にしてください。

通常停止の方法

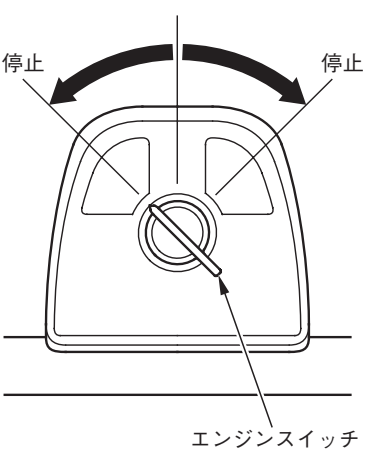
1. 主クラッチレバーを放して**“切”**にします。



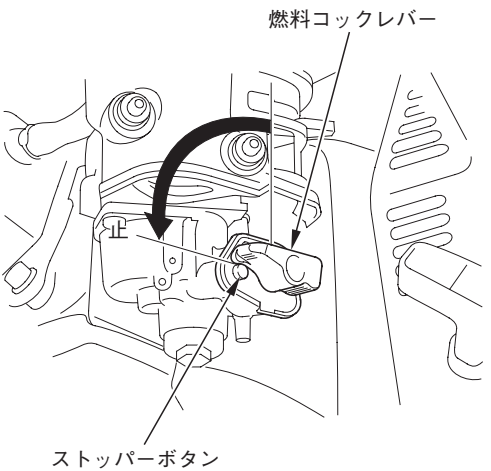
2. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



3. 変速レバーを“中立”の位置にします。
4. エンジンスイッチを“停止”に合わせます。



5. 燃料コックレバーを“止”に合わせます。
   • ストッパーボタンでとまる位置にします。



定期点検を行いましょう

耕うん機を安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検項目 ＼ 点検時期（1）		稼働期前	作業前点検	1ヶ月目又は初回20時間運転目	3ヶ月毎又は50時間運転毎	6ヶ月毎又は100時間運転毎	1年毎又は300時間運転毎	参照頁
エンジンオイル	点検、補給		○					23
	交換	○		○		○		44
エアクリーナ	点検		○					25
	清掃				○（2）			46
	交換						○	46
本機周り	点検		○					20
レバー類の作動	点検		○					20
各部締付け	点検		○					20
配線、ケーブル類	点検		○					20
エンジンの始動、停止	点検		○					20
泥水カバー	点検、清掃		○					27
主クラッチレバーの作動	点検、清掃		○					30
	グリス塗布	○(3)(6)						－
主クラッチケーブル	点検、調整			○（3）		○（3）		－
駆動ベルト	点検、調整			○(3)(5)		○(3)(5)		－
変速機オイル	点検	○		○			○	26
燃料ろ過カップ	清掃					○		51
各部防錆、給油	塗布、給油	○（3）						－
アイドル回転	点検、調整						○（3）	－
点火プラグ	点検、調整					○		48
	交換						○	48
エンジン回転調整ケーブル	清掃、調整						○	50
吸入、排気弁のすき間	点検、調整						○（3）	－
燃焼室	清掃	500時間運転毎（3）（4）						－
燃料タンク及びフィルタ	清掃	○（3）				○（3）		－
燃料チューブ	点検	2年毎〈必要なら交換〉（3）						－

（1）点検時期は、表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
（2）ホコリの多い所で使用した場合、エアクリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
（3）適切な工具と整備技術を必要としますので、販売店またはサービス店で実施いただく項目です。
（4）表示時間を経過後すみやかに実施してください。
（5）ベルトに亀裂、異常摩耗が入っていない事を確認し、異常がある場合は交換してください。
（6）長期間(30日以上)保管する場合は、錆防止のため潤滑剤(グリース)を主クラッチレバー周りの摺動部へ塗布してください。

点検・整備のしかた

作業を始める前に、作業内容を確認ください。ご自身で実施できない場合、お買いあげ販売店またはサービス店に相談ください。

⚠警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグキャップを取外して行ってください。

エンジンオイルの交換

エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

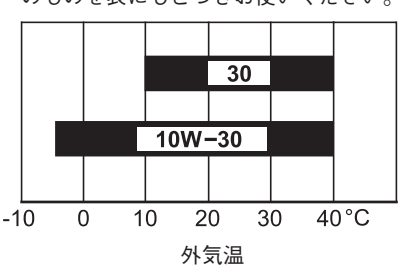
取扱いのポイント

本機を横倒しにしないでください。ガソリンやオイルがこぼれたり、始動性が悪くなったり、始動後に白煙を発生したりすることがあります。

10 mmのレンチ類をご用意ください。レンチ類は装備されていません。

《推奨オイル》
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）、またはAPI分類SE級以上のSAE 10W-30オイルをご使用ください。

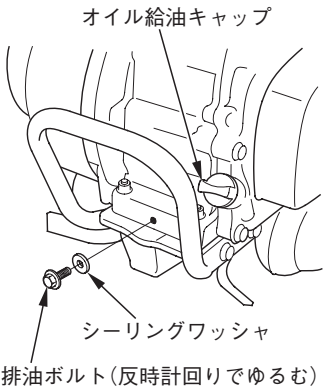
エンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



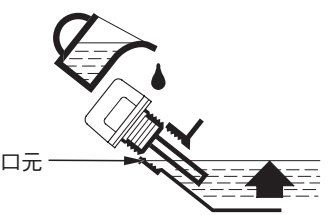
《エンジンオイル量》 0.58 L

《交換のしかた》

1. 平坦な場所で本機を止めて、オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜き、適切な容器に受けます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリングワッシャを取付け、シリンダバレルに確実に締付けます。



3. 本機を水平にし(23頁参照)、注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

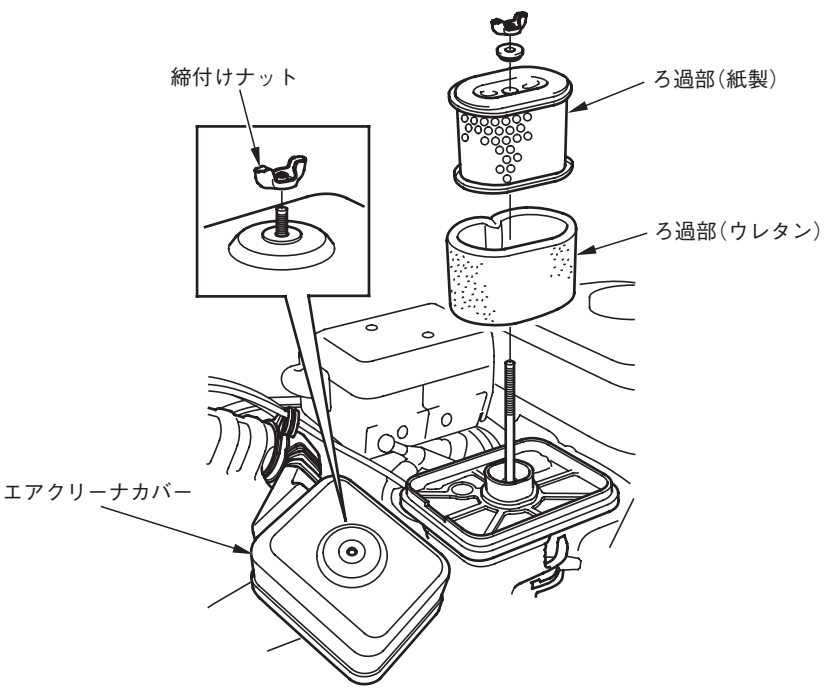
取扱いのポイント

- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
- 交換後のエンジンオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

エアクリーナ(空気清浄器)の清掃・交換

エアクリーナ(空気清浄器)が目詰まりをすると出力不足になり、燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

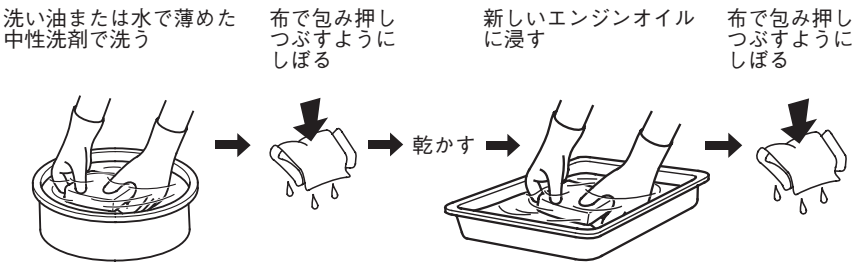
1. 締付けナットを外し、図のようにエアクリーナカバーを外して、ろ過部を取外します。
   エアクリーナカバーにはエアダクトチューブが接続されています。カバーやエアダクトチューブを損傷させないように注意してください。



2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後、固く絞ってから取付けます。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
洗浄は換気の良い場所で行ってください。



3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. ろ過部、エアクリーナカバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

- エアクリーナカバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エアクリーナカバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検･調整･交換

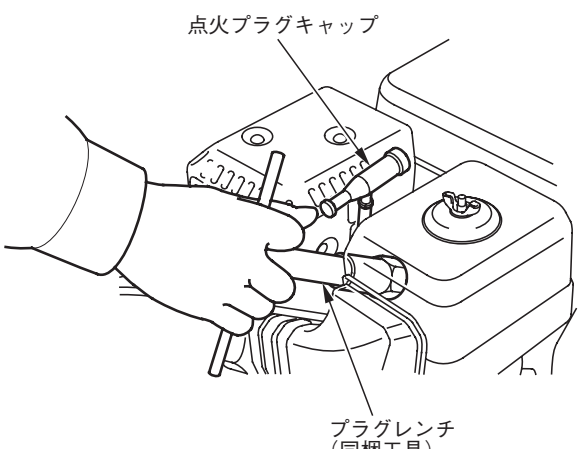
電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

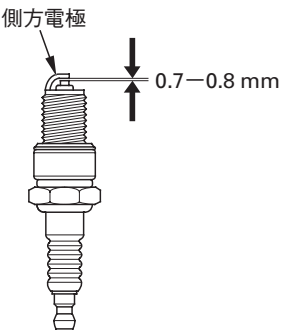
清掃のしかた

1. エンジンを停止し、点火プラグキャップを取外します。
2. プラグレンチで点火プラグを取外します。
3. 点火プラグを清掃します。
   点火プラグの清掃はプラグクリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。
   プラグクリーナが無いときは、針金かワイヤブラシで汚れを落としてください。



調整のしかた
4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間：0.7－0.8 mm
《標準プラグ》 BPR5ES (NGK)
W16EPR-U (DENSO)



取扱いのポイント

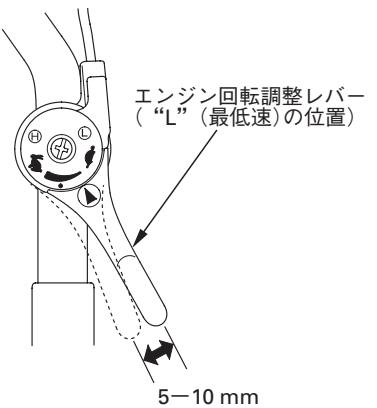
- 故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽く一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
- 点検・調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

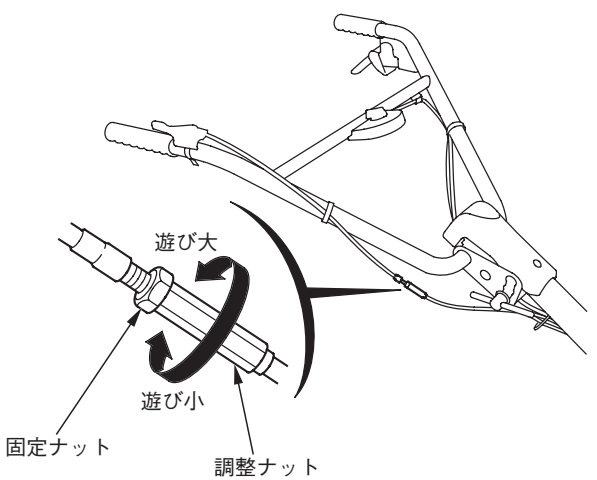
エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

調整のしかた

1. エンジン回転調整レバーを“L”の位置にします。レバーの遊びが先端部で下記寸法になるように調整します。
   遊び：5－10 mm
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





燃料ろ過カップの清掃

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

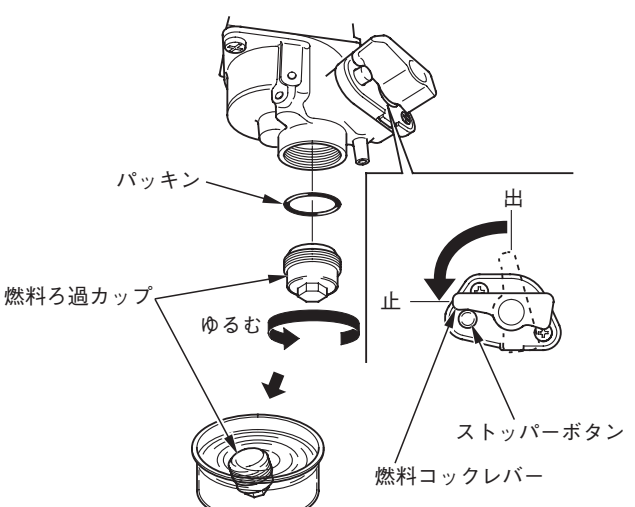
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・火気を近づけないでください。
・燃料フィルタの取付け後、漏れがないか点検してください。
・ガソリンが周りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

《清掃のしかた》

1. 燃料コックレバーを**"止"**にします。
2. 六角部を回してゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い、底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、パッキンを元どおりに取付け、燃料ろ過カップを取付けます。
5. 燃料ろ過カップは、六角部を回して確実に締付けてください。
6. 燃料コックレバーを**"出"**の位置にし燃料の漏れのないことを確認します。



長期間使用しないときの手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内の燃料を抜いてください。古くなった燃料は故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグキャップをプラグから取外します。

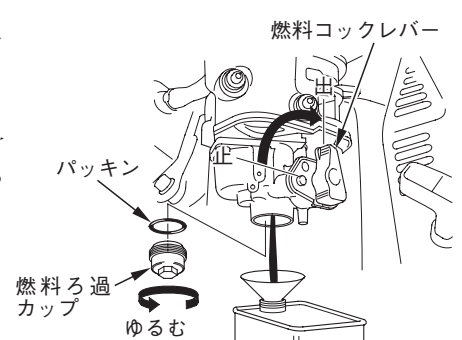
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを抜くときは
- 換気の良い場所で行ってください。
- 火気を近づけないでください。
- ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ内の燃料を下記の要領で抜きます。

《燃料タンク内燃料の抜きかた》

1) 燃料を受けるため、適切な容器をキャブレータの下方に配置します。確実に燃料を受けるため、じょうごを使用してください。
2) 燃料コックレバーを“止”の状態で、燃料ろ過カップとパッキンを取外します。
3) 燃料コックレバーを“出”にし燃料タンク内の燃料を抜きます。
4) 燃料が出なくなったら、燃料コックレバーを“止”にします。



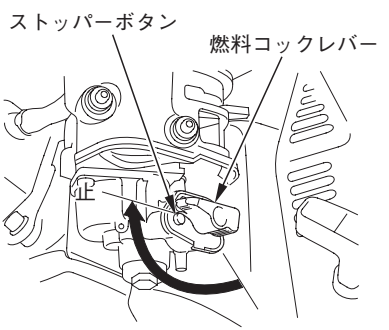
5) パッキンと燃料ろ過カップを確実に取付けます。

《キャブレータ内燃料の抜きかた》

1) 燃料を受けるため、適切な容器をキャブレータの下方に配置します。確実に燃料を受けるため、じょうごを使用してください。
2) ストッパーボタンを押しながら、燃料コックレバーを“ドレン”にしキャブレータ内の燃料を抜きます。



3) キャブレータ内の燃料が出なくなったら、燃料コックレバーを“止”にします。
   - カチッと音がする位置まで燃料コックレバーを戻します。
     燃料コックレバーの戻し過ぎに注意してください。



2. エアクリーナ(空気清浄器)を清掃します。(清掃方法は46、47 頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジンバルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になります。)

取扱いのポイント

- 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- 本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故障のときは

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう

1. 始動方法は取扱説明書通りですか?（32～35頁参照）
2. ガソリンはありますか?（21、22頁参照）
3. エンジンオイルは注入口、口元までありますか?（23頁参照）
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか?（48頁参照）

- 点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

少し時間をおいてもう一度確めましょう

主要諸元

名称		F502
型式		ホンダF502
区分		J
機体寸法	全長	1,340 mm
	全幅	655 mm
	全高	1,080 mm
全装備質量（重量）		51 kg
エンジン	名称	GX160H1
	形式	空冷4ストローク単気筒（OHV）
	総排気量	163 cm^3
	連続定格出力／回転速度	2.9 kW (3.9 PS)/3,600 rpm
	最大出力／回転速度（SAE J1349に準拠＊）	3.6 kW (4.9 PS)/3,600 rpm
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	2.4 L
	エンジンオイル容量	0.58 L
	点火方式	トランジスタマグネト点火式
	始動方式	リコイルスタータ
クラッチ方式		ベルトテンション
変速段数	前進	2段
	後進	1段

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

注意：諸元は予告なく変更することがあります。

同梱部品の組付け方

次の手順と要領で同梱部品を組付けてください。
なお、説明に使用しているイラストが一部実機と異なる場合がありますが、取付け手順と要領は同じですのでご了承ください。

⚠注意

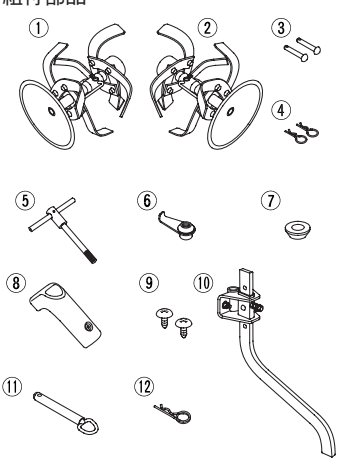
取付け作業は必ず手袋を着用して２人で行ってください。本機が転倒し思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間、１人は本機が倒れないようにささえてください。

・梱包を開き、同梱部品、本機を取り出し、梱包材などの緩衝材の上に置きます。本機は平らな場所にフロントガードを下にし静かに置きます。
ハンドルと本機間のエンジンスイッチコード、エンジン回転調整ケーブル、クラッチケーブルをむりに引っ張らないように注意してください。
・下記同梱部品リストで部品点数、及び損傷の有無を確認してください。

同梱部品リスト

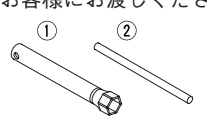
No.	組付部品	個数
①	左側耕うん爪(ロータ)	1
②	右側耕うん爪(ロータ)	1
③	保持ピン(７×75)	2
④	固定ピン(小)	2
⑤	ハンドル高さ調整レバー	1
⑥	ハンドル固定ナット	1
⑦	スペシャルナット	1
⑧	ハンドルコラムカバー	1
⑨	スクリュ(５×12)	2
⑩	アタッチメントヒッチ	1
⑪	保持ピン(大)	1
⑫	固定ピン(大)	1

組付部品



No.	付　属　工　具	個数
①	プラグレンチ	1
②	プラグレンチハンドル	1

付属工具(お客様にお渡しください。)

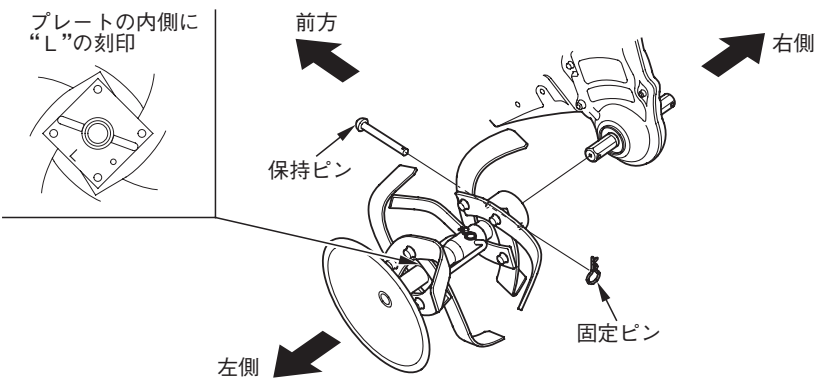


耕うん爪(ロータ)の取付け

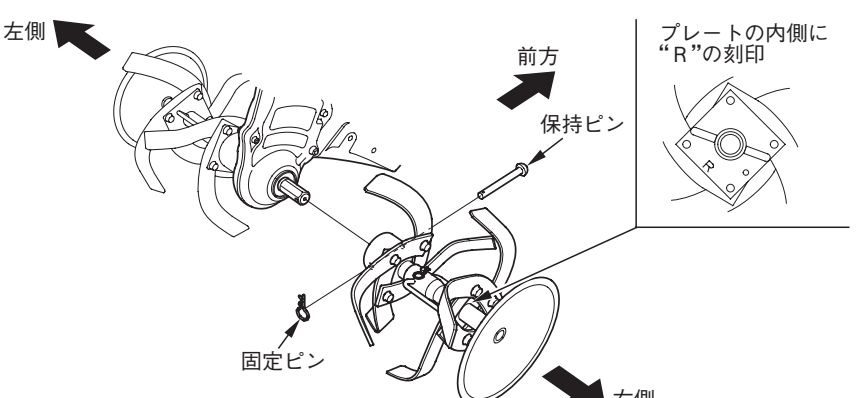
耕うん爪(ロータ)を取付け、ピン穴を合わせて保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。

- “L”の刻印のあるものは左側、“R”の刻印のあるものは右側に組付けます。

《左側耕うん爪(ロータ)》

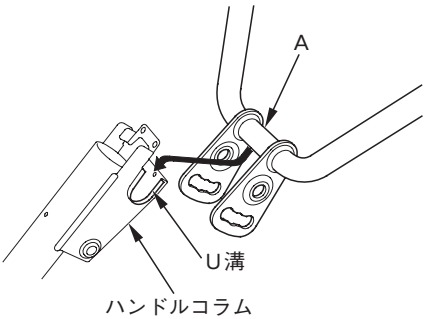


《右側耕うん爪(ロータ)》



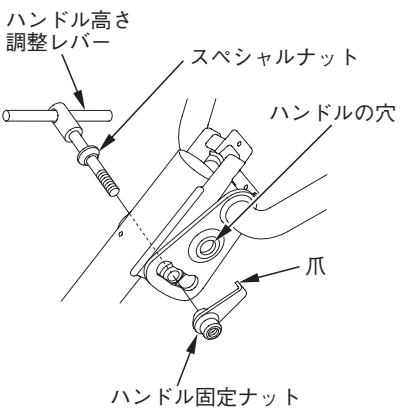
ハンドルの取付け

1. ハンドルコラムのU溝にハンドルのA部を合わせてセットします。

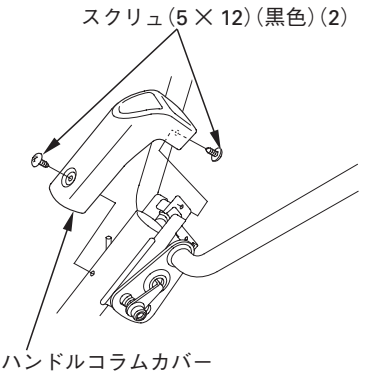


2. ハンドルを固定します。
   ①ハンドル高さ調整レバーにスペシャルナットを組付けます。
   - スペシャルナットは平な方から組付けます。

   ②ハンドル高さ調整レバーをハンドルとハンドルコラムの穴に差込みます。
   ③ハンドル固定ナットの爪がハンドルの穴に入るようにし、ハンドル固定ナットを保持します。
   ④ハンドル高さ調整レバーのねじ山を、ハンドル固定ナットに合わせて仮付けします。
   ⑤ハンドルを**“中”**の位置に合わせ、ハンドル高さ調整レバーで確実に締付けします。
   - ハンドル高さの調整は28頁参照。

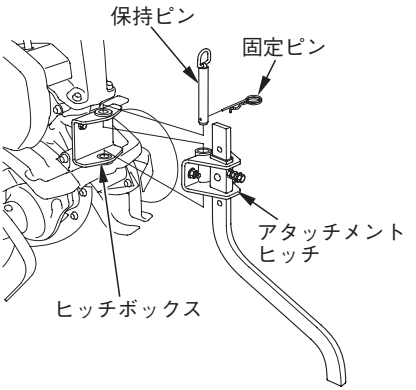


3. ハンドルコラムにハンドルコラムカバーを取付け、スクリュ(5 × 12)(黒色)で固定します。

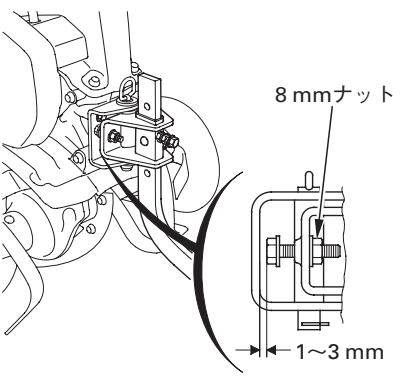


アタッチメントヒッチの取付け

1. アタッチメントヒッチをヒッチボックスに取付け、保持ピンを差込み、固定ピンで固定します。



2. ヒッチボックスと8 mmボルトのすき間を左右1～3 mmになるよう8 mmボルトで調整し、8 mmナットを確実に締付けます。



Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

HONDA

The Power of Dreams

30V42600
00X30-V42-6000

Ⓢ HC
© 2011 本田技研工業株式会社